疫

病菌・ベと病菌に対す

る基礎活性が

極めて少

ない薬量で病原菌生活環



# 豊 さ か な 実 ŋ K つな が る新 61 対き目

疫病 、と病用殺菌剤

# M

丸和バ

イオケミカル株式会社

ベック ®エニケ ®(以下ゾ ベック ®エニケ ® は

:規有効成分・オキサチアピプロリンが疫病やべと病などの病原菌である。月13日付で農薬登録を取得した新規の作用機構を持つ殺菌剤です。

卵菌類に対し 効果を

### おけ 発生しやす 散布は ミングを逃して るさまざまなステ が、悪天候(荒天、連続的 感染前に予防的に実施す か条件の. **図** 中で ージに作用 も優れた防除 病気

効 の

基本です など)や他の管理作業のために最適な防除 比較的安定した効果が期待できます しまった場合の散布で な降雨 るのが

# 特長① 優れた上方移行性

展開す 葉にも 病害から的確に保護できます 特長② 有効成分が行き渡り る栄養成長期においても、 優れた葉面浸透性 ます。 · 図 2 作 新葉が :物 を

る安全性:

は高い

# 時に展開中 あるいは未展開

の

除

存

殺

用を発揮します 葉裏まで到達し、葉裏に対しても保護作 葉の表面に付着した有効成分の一部は 図3)。

に作用部位がまったく異なるため、 特 長 5 剤感受性菌、耐性菌を問菌剤との交差耐性があり 効果を発揮 適用作物へ 耐性菌を問わ の高い安全性 ません。

## が認めら これまで れ た事例は の委託試験、 な

社内試

験で薬害

適用

作物

に対

物長 周辺環境への高い

生特

# 哺乳類、 鳥類、 魚類に対す Ś 毒性が低

安全性

みの病原菌研究結果に基づく。

# 特長③ 6布後、 有 優れた耐雨性 効成分の大部分は葉の

散

耐雨性を発揮 のワックス層にすばやく吸収さ します **図** ħ 優 表面 ħ

た

既存殺菌剤の耐雨性も有効特長④ これまでの殺菌剤とは作用機構な 高い 。 各 既 防 既存

# ■図1 生活環の各ステージに対する作用

病原菌生活環におけるさまざまなステージに作用することで、卓越した防除効果を安定して発揮します。



における菌糸伸長を阻害

# 環境に及ぼす影響が少ない薬剤です。の有用昆虫に対する安全性も高く、 いことが確認されています。 また、

ハチ

周

辺 筝

耐性菌管理方針 ゾーベック®エニケ-

・発病前に予防的に使用し、進展を防止します。 病など他病害には効果があり は次の疫病防除剤を散布して 疫病専用剤です。 有効薬剤と組み合わせて使用して 。菌核病、 、軟腐病、夏疫 ません 10 円後に  $h_{\circ}$ 他 い は耐性菌管理を を 年に農薬登録を るよう努力-

わが国の農業生産に末永く貢献でき

含め適切な使用

まいります

本剤のご愛顧

何とぞよろ

ださい

開花前の栄養成長後期、 は用上のポイン! 疫病の初期感

管理

方針を守り

適切にお使い

効果が低下する恐れがあります。耐性耐性菌が発現するリスクが増大し、防過度に本剤に頼って病害防除を行う

染が懸念される時期のご使用をおす

初期感染を確実に抑え

疫病の

て平成22年

た新農薬実用

用化試験を開始し、平成26り日本植物防疫協会を通

農薬登録を取得

申請、

平成28年4月

H

)た(表1)。

今後

め

) ® エニケ

® は

日本におい

供試作物 :ばれいしょ (品種 :デジマ)ポット苗(5 ポット/ 区) 試験方法:本葉7~8 展葉期にお いて上位葉はチャック付きポリ袋 で覆い、下位葉のみ葉剤散布。散 布2日後に疫病菌遊走子嚢懸濁 液(5.0×104個/ml)を噴霧接種 (200 ml/株)。その後は24 時間 湿室に置き、接種10日後に調査。

平成27年 丸和バイオケミカル(株)阿見開発センター

【調査方法】

### ■図3 葉面浸透性

■図2 上方への移行性

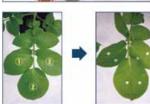
葉の表面に処理した本剤の一部は葉の内部へ浸透し、裏面に到達します。処理面と 反対側の葉裏を保護することが可能です。 平成27年 丸和バイオケミカル(株)阿見開発センター

有効成分オキサチアピプロリンは散布後、茎葉部分から植物体内に吸収され、すみや

かに上方移行し、上位葉及び新たな展開葉を的確に保護します。

[試験方法]



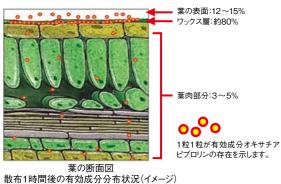


ペック" エニケード" 5000倍 **西**対師C水和剤 400倍

供試作物:ばれいしょ (品種:デジマ)ポット苗 試験方法:2複葉先端の小葉3枚の葉表に 薬剤処理(塗布)。処理2日後に疫病菌遊走 子嚢懸濁液(5.0×10<sup>4</sup>個/ml)を接種(円盤 状打ち抜いたろ紙に懸濁液10μℓを染み込 ませ、各小葉の葉裏2ヶ所に貼付)。その後 は24時間室温に置き、接種10日後に調査。

### ■図4 耐雨性

耐雨性は有効成分の植物細胞内への浸透速度と関係します。散布後、有効成分オキ サチアピプロリンの大部分は葉の表面のワックス層にすばやく吸収され、優れた耐雨 性を発揮します。散布1時間後以降の降雨は防除効果にほとんど影響を与えません。



# 耐性菌管理方針

導を行

- ●ラベル記載の薬量(希釈倍数)を遵守し、推奨する散布間隔(7~10日)を 守って使用してください。
- ●栽培期間の前半に使用してください。防除の序盤に使用することで作物保護 効果を高めつつ、病原菌が薬剤に暴露される機会を制限することができます。 ■異なる作用機構を持つ、疫病・べと病に有効な殺菌剤と体系(ローテーション)
- で使用してください。本剤散布以降、体系の中に治療効果のある殺菌剤を組 み入れることで耐性菌管理をより効果的に行うことができます。
- 病徴が発現する前に予防的に使用してください。病徴発現以降は本剤の散 布適期ではありません。十分な効果が得られないばかりか、耐性菌発現のリス クが急激に高まります。ご注意ください。

上記の耐性菌管理を行うことにより、登録の使用回数(2回以内)であれば耐 性菌発現のリスクは減少します。

### ■表1 登録内図

作物名	適用病害名	海积级数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	オキサチアピプロリング 含む農業の転使用回数
ientitu	<b>股</b> 病	5000@	100~ 300 ¢/10s	収穫7日前まで	2000	<b>款</b> 布	2回以内
トマト				収穫前日まで			
きゅうり	べと病						
はくさい							
レタス							
できる			200~ 700 €/10a	収穫14日前まで			

※別段の表記がない限り、®または™を付した商標は、米国デュボン社又はその関連会社の商標又は登録商標です。

09 | 太陽 k 水 k 土 NO.89 太陽 b水 b土 NO.89 | 08